

「カニ供養祭」と「キチン・キトサンシンポ」開催

富士バイオ(株) (静岡県富士市、☎0545-64-0011) は今月2日、鳥取県米子市内のホテルで、「第2回カニ報恩感謝供養祭」と「キチン・キトサンシンポジウム」を開催した。

供養祭は、日頃キチン、キトサン原料として利用しているカニの霊を弔い、感謝の祈りを捧げるために催されたもので、韓国からの参加者26名を含む全国の関係者170名余りが出席して行われた。出雲大社の宮司が神事を執り行うなか、参列者を代表して富士バイオの亀井武司社長ら12名が玉串を奉奠(ほうてん)した。

また、午後からは、「キチン・キトサンの展望」と題したシンポジウムも併催され、元鳥取大農学部教授・平野茂氏による「キチン・キトサン：環境と生態系に優しい次世代の産業資材」、愛媛大医学部教

富士バイオ

授・奥田拓道氏による「機能性栄養食品をリードするキチン・キトサン」の講演が行われた。

平野氏は、「絹の肌触りを持ち、健康になれる”繭とキチンを合わせた繊維や、コラーゲンと合わせた繊維などを紹介、「今後、次世代の繊維として国際的な産業になる」とした。

奥田氏は、「今後は生活習慣病の予防が重要となる。西洋医学で解明できない部分は、東洋医学的手法(陰陽の考え方)でアプローチすると分かりやすく、キチン、キトサンも陰陽のバランスを整える働きが期待できる。今後、がん治療における免疫能低下の阻止という点で大いに力を発揮するだろう」とした。

「昆虫食品」が好調 OEMにも対応

シンギー

(株)シンギー(東京都中央区、☎03-3353-7188)の健康食品「昆虫パワーシリーズ」の販売が好調に推移している。アリ加工食品『エイ・エヌ・ティー』、蚕を加工した『野蚕の精』、ハチの子粉末『バイタルビー』があり、いずれの昆虫も中国では滋養強壮や疾病の治療に使用されているという。

日本では一昨年からマスコミで取り上げられて火がつき始め、同社の今年3月期の売上高は対前期50%増になる見通しだ。それに伴い昨年9月、中国・天津市



に生産工場を設立した。同社では「今後も漢方に根差した健康食品を、品質にこだわって日本に紹介したい。現在、販路は全国の漢方薬局が中心だが、健康食品店にも拡大していく。OEM供給も視野に入れる」(齊藤光史社長)としている。

2000年(平成12年)3月15日

ヘルスライフビジネス



富士
富